

ご使用に際して、この説明書を必ず読んで下さい。
また、必要な時に読めるよう本剤とともに保管して下さい。

小柴胡湯

(しょうさいこうとう)

第2類医薬品

本剤は、漢方の古典「傷寒論」「金匱要略」に記載されている小柴胡湯に準拠して製造された煎薬用の紙パック剤です。



使用上の注意



してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用が起こりやすくなる)

次の人は服用しないこと

生後3ヵ月未満の乳児。



相談すること

1. 次の人は服用前に医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| (1)医師の治療を受けている人。 | (6)次の症状のある人。：むくみ |
| (2)妊婦又は妊娠していると思われる人。 | (7)次の診断を受けた人。：肝臓病、高血圧、心臓病、腎臓病 |
| (3)体の虚弱な人(体力の衰えている人、体の弱い人)。 | (8)インターフェロン製剤で治療を受けている人。 |
| (4)高齢者。 | |
| (5)今までに薬などにより発疹・発赤、かゆみ等を起こしたことがある人。 | |

2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

関係部位	症 状	関係部位	症 状
皮膚	発疹・発赤、かゆみ	その他	頻尿、排尿痛、血尿、残尿感

まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症 状
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
偽アルドステロン症、ミオパチー	手足のだるさ、しびれ、つばり感やこぼりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。

3. 1ヵ月位(風邪の後期の諸症状に服用する場合には1週間位)服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

4. 長期運用する場合には、医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること

【効能・効果】

はきけ、食欲不振、胃炎、胃腸虚弱、疲労感及び風邪の後期の症状。

【用法・用量】

大人(15才以上)は1包(1日量)につき水400mLを加え、あまり強くない火にかけ200mLに煮つめ、紙袋とともに煎じかすを取り去り、食前1時間前又は食間空腹時に温服して下さい。小人(15才未満)は同様に煎じ、下記の量を食間空腹時に温服して下さい。

年 齢	1包(1日量)煎じ液	1日服用回数	年 齢	1包(1日量)煎じ液	1日服用回数
大人(15才以上)	全量	3~2回に分けて	4才未満 2才以上	1/3量	3回に分けて
15才未満 7才以上	2/3量	3回に分けて	2才未満	1/4量以下	
7才未満 4才以上	1/2量				

〈用法・用量に関連する注意〉

- 小児に服用させる場合には、保護者の指導監督のもとに服用させること。
- 1歳未満の乳児には、医師の診療を受けさせることを優先し、やむを得ない場合にのみ服用させること。
- 用法・用量を厳守すること。

【成分・分量】 [本品1包(1日量) 22.0g中]

日本薬局方 サ イ コ	8.0g	日本薬局方 タ イ ソ ウ	3.0g
日本薬局方 ハ ン ゲ	4.0g	日本薬局方 シ ョ ウ キ ョ ウ	1.0g
日本薬局方 オ ウ ゴ ン	3.0g	日本薬局方 シ ョ ン ソ ウ	2.0g
日本薬局方 チ ク セ ツ ン シ ン	3.0g		

保管及び取扱い上の注意

- 直射日光の当たらない湿気の少ない涼しい所に保管すること。
- 小児の手の届かない所に保管すること。
- 他の容器に入れ替えないこと。
- 煎じ薬は腐敗しやすいので、冷暗所又は冷蔵庫等に保管し、服用時に再加熱して服用すること。



【問い合わせ先】

本製品についてのお問合せは、お買い求めのお店、または下記にお願い申し上げます。

東洋漢方製薬株式会社「お客様相談室」

電話 0120-00-1040

受付時間 9:00~17:00(土、日、祝日を除く)

副作用被害救済制度の問合せ先
(独) 医薬品医療機器総合機構
電話 0120-149-931